

CAUTION

草・木の分別

草や木は原則、可燃物ではなくチップやたい肥などに再利用するために資源物として回収しています。令和2年4月から草と木を別々の日に回収するようになったので、ご注意ください。

雑草などは、草の回収日に回収します。土を取り除いてください。
※野菜、花、実がついているものは可燃物として回収します。

枝や木の葉、落ち葉は木の回収日に回収します。長さは50cm、太さは5cmまでのサイズにしてください。
※木材は可燃物として回収します。

主な資源物の処理

資源物は菟野第一区にある不燃物処理場・リサイクルセンターで分別や洗浄作業を行い、品目ごとに資源化しやすい形に加工します。



アルミ缶



年間処理総量 令和元年度実績

12,190kg

アルミ缶7箱を機械で押し固め、1個のアルミの塊にします。



ペットボトル



年間処理総量 令和元年度実績

36,630kg

汚れているものを取り除き、袋2つ分が圧縮して1つの塊になります。



年間処理総量 令和元年度実績

116,180kg

プラスチック包装容器以外のものを取り除き、袋3つ分を圧縮します。

年間処理総量 令和元年度実績

1,583t

売却実績
¥9,893,897

リサイクルセンター

不燃物処理場



ごみの分別がわからなかったら

菟野町公式アプリ



廃棄物収集カレンダー

設定した居住区ごとにアイコンで収集日を表示します。アラート機能で収集日に通知が届く設定も可能です。



廃棄物分別辞典

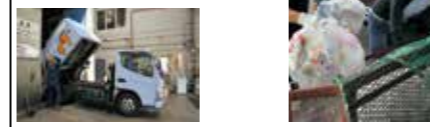
分別辞典機能を内蔵しており、「小型家電」「金物」「可燃物」といった分別項目を確認することができます。

源物は一旦、町リサイクルセンターに集められ、分別や洗浄、圧縮などの過程を経て、品目ごとに再資源化されます。令和元年度は年間約1583tの資源物を再資源化しており、皆さんの家庭から排出された廃棄物が貴重な資源として再資源化の道をたどっています。

自然豊かな町、菟野町。しかし、菟野町から出た廃棄物が遠く離れた海を汚し、かけがえのない自然を蝕んでいる可能性もあります。ほんの少しの心掛けでも、一人一人の行動が変わればきっと地球にやさしくなれるはず。まずは身近なことからはじめましょう。

1 集める

曜日ごとに4~5台のバスターが各区を回り、廃棄物を回収します。清掃センターと各区を複数回往復して回収を行っています。



可燃物処理の仕組み

可燃物は永井区にある清掃センターに集められ、焼却処分します。

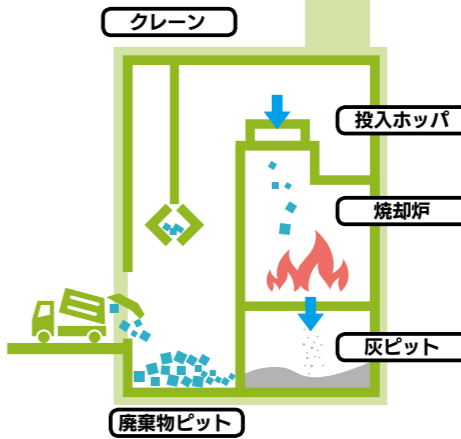
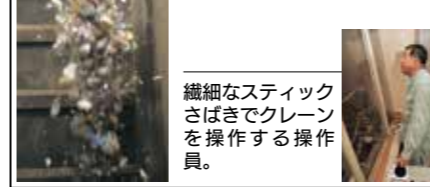
3 燃やす

クレーンで投入ホッパに可燃物を投入し、850度以上の高温で焼却処分します。焼却の様子はカメラで常に監視しています。



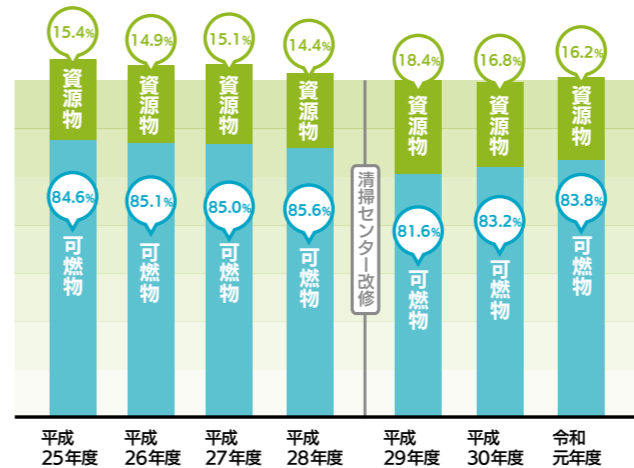
乾かす 2

廃棄物ピットに投下された可燃物は、クレーンで持ち上げて落とす作業を繰り返して乾かされます。



4 分ける

燃焼後の灰や焼却炉内の燃え残りを分別して回収します。灰は肥料などとして有効利用しています。



可燃物と資源物の割合
平成29年度に実施した施設改修や資源物として草や剪定木を回収するようになったことで、可燃物の総量が減少し、資源物の回収割合が増加しました。

町清掃センター焼却炉 処理能力

20t/8hr×2炉

清掃センター

可燃物を削減する必要性

菟野町では可燃物、不燃物および資源物の回収を行っています。可燃物は家庭から出る生ごみや資源物にならないプラスチック製品などで、主に町清掃センターで焼却処理を行っています。平成29年に町清掃センターを改修したことに伴い、分別方法を変更したことで焼却処分を行う総量は年間600t程度減少しました。しかし、今後も焼却処理を行う総量が多くなれば、清掃センターの施設に多大な負荷がかかることとなります。施設の長寿命化を図るためにもこのような負荷を軽減し、資源物として再利用できるものは可燃物として排出せず、可燃物を少しでも減少させるような心掛けが必要になってきます。

さらなる再資源化への道

現在、町で回収している資源物は缶、瓶、段ボールなど多岐にわたり、住民の皆さんには分別や回収にご協力いただいています。先述したプラスチック廃棄物についてもプラスチック容器包装や製品プラスチックは資源物として回収しています。回収した資